

高大接続から見た浙江省における大学入試改革（2） ：「高考」と「基礎分野学生募集」を中心に

張，小暁
九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻：修士課程

<https://doi.org/10.15017/7325627>

出版情報：九州大学教育社会学研究集録. 28, pp.53-73, 2024-09-15. Seminar of Educational Sociology Department of Education, Graduate School of Human-Environment Studies Kyushu University

バージョン：

権利関係：



高大接続から見た浙江省における大学入試改革（2）

－「高考」と「基礎分野学生募集」を中心に－

Research University Entrance Examinations reform in Zhejiang Province from the Point of High Schools・University Articulation (2) —Focusing on the "Gaokao" and "Program of Enrollment for Basic Subjects"

張 小曉

1. 問題の所在：浙江省における大学入試改革の意味は何か？

1977年に全国統一入試（以下、「高考」と略記）が再開されて以来、中国の大学入試は40年以上の変遷を経て、徐々に制度が形作られてきた。1999年の大学生募集枠の拡大により、大学入試の競争が多少緩和されたが、「高考」は新たなジレンマに直面している。それは、高校教育と大学教育の大衆化のスピードの不均衡や教育資源の不足により、「学力検査で一発勝負」とされる「高考」の競争は、依然として厳しい状況にあり、「大学進学」から「有名大学・人気専攻への進学」という、新たな競争が繰り返されている（刘, 2002）。その結果、高校教育はしばしば「大学教育への進学のための準備」の段階として狭く定義され、「大学教育での学習の成功のための準備」という重要な機能が軽視されてきた（石, 2014）。また、過度の知識偏重と試験中心に陥っている高校教育と、21世紀を牽引する国家を担うグローバル人材を育成する、急激な変化に対応でき新たなものを創造していくという目標に取り組んできている大学教育という2つの異質的な教育段階の衝突は、高校と大学の間に障壁を作り出し、「高考」のための高校教育がますます深刻化するなかで、一部の入学者の大学教育への適応を阻害することとなった（鲍ら, 2016）。このように、現行の大学入試制度と高校教育、大学教育との間に、新たな不備を露呈した。変動する社会のなかで、新しい大学入試制度の探求がこの時期の教育改革の大きなテーマの一つとなってきた。これらの事情を背景に、中国は、2010年に、2020年に向けた中国の教育改革に関わる全体の構想を提言した「国家中长期教育改革・発展計画要綱(2010-2020年)」(原語：

「国家中长期教育改革和发展规划纲要(2010-2020年)」、以下、「要綱」と略記)が打ち出され、この「要綱」では、「試験の分類化」、「総合的評価」、「多元的選抜」という方針が掲げられた（中華人民共和国国务院, 2011）。「試験の分類化」とは、大学は「高考」、それ以外の高等教育機関が各地方で組織する入試を行うというものである。「総合評価」とは、「高考」・学力水準試験として各地方で行われる「高校学業水準試験」（原語：普通高中学业水平考试、高校卒業試験に該当）を「2つの根拠」、総合素質評価（原語：综合素质测评、高校調査書に該当）を「1つの参考」として、3つの評価手段を合わせて、学力検査のみに頼らない選抜を目指すというものである。「多元的選抜」とは、独自選抜、特別入試など独自事前選抜をさらに特化させ、入試区分を増やす構想というものである。「要綱」に沿って、中国は入試改革を検討し始めている。そのうち、浙江省は、2012年に「浙江省における教育事業発展の「第十二次五カ年」計画」（原語：「浙江省教育事业發展“十二五”规划」）を發表し、「多様な大学入試方式を模索する」という当該計画の指導方針で「三位一体」入試⁽¹⁾という大学が事前に個別の入学許可を出すという新しい入試方式を試みた（浙江省教育厅, 2012）。また、2014年に、中国は浙江省を皮切りに、「高考」改革が開始され、2017年度「高考」から、従来の「3+文系/理系総合問題」を廃止し、文理合わせて7科目から自由に3科目を選択する「3+3」方式が実施されるとともに、選択科目や外国語等の科目で複数の受験機会を年に2回にすることで生徒の受験機会を増やしなが、新しい出願・募集方式を模索し、2020年度に向けて中国全国に普及を図ることとなった（浙江省教育考试院, 2012）。その後、2020年に教育部が公表した「特定大学における学生

選抜改革の施行に関する意見」(原語:「关于在部分高校开展基础学科招生改革试点工作的意见」)では、「自主学生募集」の廃止に伴い、特別入試とする基礎分野学生募集改革プロジェクト(原語:「基础学科招生改革试点」)、以下、「基礎分野学生募集」と略記)が教育部の指定した、中国の名門大学の1つとされている、浙江省における浙江大学も含まれている36の大学で先行的に実施されることになった(中華人民共和国教育部,2020)。すなわち、中国では、浙江省における大学入試改革が先駆的な試みとされている。

こうして、「要綱」で「中央政府は国家統一的教育政策や計画を制定し、地方政府は具体的に政策の実施に責任を持っている」ことや「省政府の教育権限と責任を強化し、省単位の教育改革を実施する」こと(中華人民共和国国務院,2011)が提示されたように、浙江省では、中央政府が発表された教育改革の方針に従い、「三位一体」入試、「高考」、「基礎分野学生募集」などの一連の大学入試改革を促してきた。浙江省政府が公布した2010~2020年の高等教育機関進学率に関するデータによると、全体的に高等教育の量的規模が拡大し、進学率が上昇してきたとは言え、進学者のなか、大学以外的高等教育機関としての専科学校(専門学校に該当)や職業技術学院(専門職大学・短期大学に該当)へ進学した者が徐々に大学へ進学し者より上回る傾向にあるということがわかる。すなわち、専科学校など大学以外的高等教育機関の認知度が低いとされている中国社会では、浙江省における高等教育の量的拡大が進行しつつも、大学進学をめぐる受験競争が依然として厳しいと言える。それでは、積極的に大学入試改革を推進している浙江省において、教育システムのなか、この一連の大学入試改革の意味は何かという疑問が出てくるであろう。

2. 浙江省における「高考」改革

2.1. 浙江省における「高考」改革の方向性

2.1.1. 「高考」改革の実際

中国における「高考」は、教育部入試センターと各省の入試委員会が共同で管理運営し、毎年全国統一で実施されている。「高考」は1952年から導入され、文革期に

一時廃止されたものの、文革終結後に復活し、その後様々な改革を経て今日に至っている。長い期間にわたって定着してきた「高考」制度については、一発勝負の試験であるため、受験者に過度な負担を与え、教育内容が試験勉強のみに偏るといった弊害が長らく指摘されてきた。また、試験は単純に成績によって志望大学を順位つけていく形となったため、1点でも多く取るための競争が激しい。

「高考」が抱える問題を指摘する声を受け、2014年、中国国務院は、大学入試制度改革の導入を表明している「大学入試制度改革の深化に関する实施意见」(原語:「国务院关于深化考试招生制度改革的实施意见」)、以下、「实施意见」と略記)を公布した。そのなかで、改革開放から30年、中国の大学入試制度は、改善を重ね、学生の成長、国家の人材選抜、社会の公平性の実現に貢献してきたとして一定の評価をしている。その一方、試験の点数が受験者の全面的発展に及ぼす影響、受験者の学習負担、都市と地方の入学機会格差等が課題として指摘され、次の改革を示した(中華人民共和国国務院,2014)。

まず、改革の基本原則としては、学生の健康的な成長を重んじ、試験準備を強調する教育からの転換、素質教育の推進、德智体美の全面発展的な社会主義建設者および後継者を育てることである。また、その際、制度上の公平性・公正性を確保しつつ、効率的に大学入学者選抜を実施することの必要性が強調された。改革の重要なポイントとしては、以下のようにまとめられる(中華人民共和国国務院,2014)。

- ①複数回受験を可能にし、複数の試験科目の中から選択できるようにする。
- ②各大学が自主的に学生募集を行うことができるようにする。
- ③高校段階で「高校学業水準試験」を行い、「高考」と「高校学業水準試験」の総合評価およびそのほかの多元的な募集方法を検討する。
- ④文系理系の区別をなくす。
- ⑤外国語試験を一年に何回も受験できるようになる。

「高考」改革は、段階的に進められ、2014年に、まず浙江省と上海市において、同年秋に入学した高校1年生から執行され、2017年に、全国的に推進し、2020年には、制度が確立されることが期待されている(中華人民共和国国務院,2014)。今回の「高考」改革の選抜方式や評価手段に関しては、従来の「素質教育」を維持しつつ、

「高考」と「高校学業水準試験」の成績を統一すること、高校における「総合素質評価」を大学入学者選抜の基準とする、総合的評価システムを模索することとなった(中華人民共和国国務院, 2014)。また、それに伴って、受験者はより多くの選択権を持つことができるようになり、大学側は、合格の条件となる、受験者の「高校学業水準試験」における受験科目と成績、および「総合素質評価」の成績、そして入学者選抜におけるそれらの利用方法を事前に公表する必要があるとされた(中華人民共和国国務院, 2014)。「実施意見」を受けて、2014年9月、浙江省は、「浙江省における大学入試制度総合改革を深化させ

るための試行方案」(原語: 浙江省深化高校考试招生制度改革试点方案、以下、「試行方案」と略記)が実行された(浙江省教育考院, 2014)。

また、今回の「高考」改革においては、2014年「实施意见」の「出題内容の基礎性・総合性を強化し、学生が自ら考え、学んだ知識を用いて問題を分析し、問題を解決する能力を重点的に考查する」(中華人民共和国国務院, 2014)という内容を受け、「知識」を考查することから、「能力」を考查することへ、問題を「解く」ことから問題を「解決」する能力を考查することへ重点を移すことに力点が置かれている(中華人民共和国教育部, 2020)。

表 1. 「一核四層四翼」評価指針

一核: 根本的考查目標 (なぜ試験するのか)	「道徳の養成を通じて人材を育成する」	道徳性の構築
	「人材選抜」	国家への奉仕及び大学の人材育成のニーズを満たす入学者選抜
	「教学引導」	大学入試が高校教学に対して重要な引導作用
四層: 教育目的を達成するために考查対象とすべき事項 (何を試験するのか)	「基礎知識」	基本的・一般的な知識
	「主要能力」	学んだ知識を基に、問題を分析し解決する能力
	「学科素養」	学んだ知識・技能により複雑な任務を処理する力
	「核心価値」	中国特設社会主義の価値観・社会的責任感
四翼: 人材選抜のための観点 (どのように試験・評価するのか)	「基礎性」	各学校段階の素質教育の連続性を保証するもので、大学入学後に応用することが期待される、生徒の基礎的な知識や能力
	「総合性」	素質教育において目指される、徳育・智育・体育・美育・労働精神の全面的発展
	「応用性」	学習を日常生活での問題解決や、国家の発展、人間社会が直面する課題の解決に応用して結びつける思考
	「創造性」	科学教育の振興や国家の発展戦略にとって重要とされる批判的思考、柔軟な思考

出典) 中華人民共和国国務院, 2014 年, 「大学入試制度改革の深化に関する実施意見」及び教育部考試中心, 2020 年, 「中国高考評價体系説明」人民教育出版社・pp.19-20 をもとに筆者作成

そのため、「高考」改革に対処する新たな評価システムとして、中国教育部で様々な検討がなされ、「一核四層四翼」という評価システムが導入された。具体的には以下のとおりである（中華人民共和国教育部，2020）

2.1.2. 試験科目の「多様化」で段階別評価へ

これまでの「高考」制度では、国語・数学・外国語の3科目が必須科目で、文系の学生が受験する「文系総合テスト（歴史・政治・地理の3科目）」と理系の学生が受験する「理系総合テスト（物理・化学・生物の3科目）」があった。

「実施意見」に従って、「高考」に係る試験科目の選択については、浙江省においては独自の取り組みが行われている。試験科目の選択方式としては、浙江省においては、まず、文系と理系との二択ではなく、必須科目の国語・数学・外国語と、選択科目の歴史・政治・地理・

物理・化学・生物・技術7科目を設定し、選択科目から任意で3科目を選択することができるようになった。この選択は、高校の専攻科目、かつ「高考」の受験科目を意味している。受験者は本人の希望と志望大学の条件に合わせながら、35の組み合わせから選択することも可能になる（浙江省教育考院，2014）。

また、受験機会も拡大され、国語・数学は毎年6月に受験するが、選択科目は4月と10月の年2回、省で実施する「高校学業水準試験」を受験することとし、大学応募時には、2回のうち、どちらか良い方の成績で出願できることとした。また、外国語についても国語・数学の試験と同時に6月に受験できるほか、「高校学業水準試験」と併せて10月試験も実施し、2回受験可能としている。2014年秋入学者を例とすれば、「高考」および「高校学力水準試験」の試験日程は下表の通りである（浙江省教育考试院，2014）。

表2. 2014年秋入学者の「高考」および学業水準試験の日程

	2015 年	2016 年	2017 年
4 月	・ 選択科目 ・ 高校学業水準 試験	・ 選択科目 ・ 高校学業水準 試験	・ 選択科目 ・ 高校学業水準 試験
6 月			・ 国語 ・ 数学 ・ 外国語
10 月	・ 外国語 ・ 選択科目 ・ 高校学業水準 試験	・ 外国語 ・ 選択科目 ・ 高校学業水準 試験	

出典）浙江省教育考试院，2014 年，「浙江省における大学入学試験改革の深化方案」をもとに筆者作成

表2で示しているように、高校生は、「高考」の成績としての選択科目の「歴史・政治・地理」と、残りの「高校学業水準試験」の「国語・外国語・数学・物理・化学・生物・技術」の7科目それぞれ2015年4月・10月、2016年4月・10月および2017年4月に、2回受験することができる。そして、「外国語」は、2015年10月、2016年10月および2017年6月に、2回受験することができる。

最後に、2017年6月に「国語・数学」を1回受験することになっている。しかし、「高考」改革の要求に従って、上記のように高校生が自由に受験日程をアレンジすることができるが、多くの場合、高校生は各高校が定まったスケジュールに従わないといけない。

さて、前述したように、従来の「高考」は文系理系それぞれの合計点で合否が判断されることになっていた。1

点でも多く得点した受験者が合格することになるため、受験者は長期間にわたって、得点を1点でも増やすための試験勉強に励むことになる。「高考」改革による試験科目の選択可能になると共に、従来のように文系・理系で受験者を分け、素点で可否を判断することができなくなり、新たな評価方法を考案せざるを得ない。そのため、浙江省の大学入試改革において、必須科目の「国語・数学・外国語」は素点で、選択科目は段階による採点を行うことになるという規定を事前に公布した（浙江省教育庁，2014）。浙江省教育庁（2014）によると、各科目の毎回の試験成績の換算は、以下の採点段階表に従い、選択科目の得点は、最高が100点、最低が40点で、受験者の

当該試験のパーセンタイル順位によって、受験者が当該試験を受験した集団において全体のどの段階区分にいるか、という相対的な比較を試みている。例えば、パーセンタイル順位が99~100であるならば、当該選択科目の受験者のうち、トップに位置付けられ、当該選択科目試験の得点が100点になる。2014年、浙江省教育庁は、以下の採点段階表を発表した後、各選択科目の毎回の試験は、以下の表によって成績換算が行われており、2018年に「選択科目の受験人数が65,000人に満たない場合も、65,000人を基準に換算する」（浙江省教育庁，2018）という補足がある以外には、採点方式に関する変化が見られない。

表3. 選択科目の採点段階

段階区分	1	2	3	4	5	6	7
スコア	100	97	94	91	88	85	82
パーセンタイル順位 (%)	99~100	97~99	94~97	90~94	85~90	79~85	72~79

段階区分	8	9	10	11	12	13	14
スコア	79	76	73	70	67	64	61
パーセンタイル順位 (%)	64~72	57~64	50~57	43~50	36~43	29~36	22~29

段階区分	15	16	17	18	19	20	21
スコア	58	55	52	49	46	43	40
パーセンタイル順位 (%)	16~29	11~16	7~11	4~7	2~4	1~2	0~1

出典) 浙江省教育庁，2014年，「浙江省大学入試における選択科目試験に関する実施方法」をもとに筆者作成

複数回実施の「高考」制度には様々な課題が伴う。まず、履修時間の短縮が図れる一方で、出題範囲が試験ごとに異なる恐れがあるため、受験者の準備にばらつきが生じる可能性があるため（王，2019）、複数回の試験の間に受験者の学力がどのように伸びるかを考慮する必要があると考えられる。次に、「成績の良い方を選べる」という制度は、一見すると受験者に有利に思えるが、公平性

の観点から見ると必ずしも良い方法とは言えなく、複数回の試験ごとに受験者集団の構成が大幅に異なる可能性が高いため、浙江省では、下位校の生徒は、進学校や進学中堅校の生徒と同じ時期に受験することを回避しているという現象（钟ら，2019）と、試験難易度が比較的に高くばらつきが高いとされている「物理」科目離れ（潘ら，2017）が起きている。これによって平均点に大きな

影響が出るため、上記の採点段階表によって成績を換算し、得点の比較は意味を持たなくなると考えられる。さらに、各科目や各回試験の得点の等化が困難な状況では、複数回の試験結果を比較することが難しくなり（柠ら、2020）、上記の採点段階表を除けば、換算の理論的根拠や模擬実験の説明についても発表せずに、これによって得られた成績の信頼性にも疑問が生じると考えられる。

複数回実施の「高考」制度は、受験者は試験を2回受け、より良い成績を「高考」の際に採用することで、受験者の精神的負担を軽減しようとする狙いが読み取れる一方、複数回の試験を実施することにより、受験者にさらなる負荷がかかる可能性がある（王、2019）。試験回数が増えることで、準備期間の縮減による試験に対するプレッシャーも増加する可能性があるため、かえって精神的負担が大きくなることも考えられる。

このように、複数回実施の「高考」制度には、受験者の精神的負担を軽減する意図がある一方で、さらなる負荷をかけるリスクや、科学的に評価する仕組みが欠如しているといった課題も存在している。

2.1.3. 「高考」改革における選抜メカニズムの再構築

「高考」改革の重点内容のもう1つとしては、大学の選抜は「高考」のみに依存するメカニズムから、「高考」・「高校学業水準試験」・「総合素質評価」に基づく「多元的」な選抜メカニズムに順次切り替えていくことである。浙江省において、「高校学業水準試験」と「総合素質評価」は、実際にいかに「多元的」な選抜メカニズムに取り入れるのだろうか。

まず、高校教育段階における生徒の学力を測定する「高校学業水準試験」と「高考」との組み合わせが「多元的」な選抜メカニズムを構築する措置の1つとして挙げられる。浙江省では、「高校学業水準試験」と「高考」は、同じ科目で作成された2つの試験紙を同時に異なる試験会場で受験できるように配置している（浙江省教育厅、2014）。「高校学業水準試験」は、合計70点満点で必修問題のみを出題し、「高校学業水準試験」の成績評価に使用するものであり、「高考」は、合計100（70+30）点満点で、70点の試験問題が「高校学業水準試験」の試験問題と同じであり、30点の試験問題が追加問題である

（浙江省教育厅、2014）。受験者は70点の試験問題の得点に基づき、「高校学業水準試験」の成績（A、B、C、D、E）として評価され、100（70+30）点の試験問題の得点に基づき、「高考」の選択科目の成績として評価される。各科目とも2回受験でき、このうち30点の追加問題は選択科目の3科目しか受験できない（浙江省教育厅、2014）。この意味では、受験者は、「高考」の選択科目を受験すれば、該当科目の「高考」の成績と、該当科目の「高校学業水準試験」のレベルを取得することができる。そして、「高考」の試験問題の問題構成は、70%の部分が「高校学業水準試験」の内容で、高校教育の到達度を評価するものになり、30%の部分がより高次の大学教育に必要な知識能力を評価するものだと考えられる。「高考」と「高校学業水準試験」を分けようとしており、これらの試験の分立により受験者の基礎学力を確保するとともに、「高考」のための試験準備のみ重視する現状の改善が試みられているが、「学力検査」という枠組みから離脱するとは言えない。

次に、「総合素質評価」は、前述したように、一般的に「道德品質と公民素養」「課程履修と学習能力」「運動・健康と審美・表現」「实践能力と創造精神」という側面にわたって行われている。それぞれの評価項目は、いくつかの内容に細分化されており、各項目はA（優良）、P（合格）、E（不合格）となった（浙江省教育厅、2007）。「高考」改革に伴い、浙江省教育厅は、「高等学校総合素質評価に関する实施意见」（原語：高中学生成长记录与综合素质评价实施指导意见）を発行し、主に評価方法についてより詳細に改訂された（浙江省教育厅、2013）。各学校は学校や地域の実情に応じて、「総合素質評価」の具体的な内容や要件を事前に決定でき、「総合素質評価」の実施については、生徒同士の相互評価と教師評価を組み合わせ、評価結果があらかじめ取り決めた比率に従って計算され、そのうち生徒同士の相互評価は70%以上であることを規定している（浙江省教育厅、2013）。そして、評価結果はA、B、Cの3段階に分けられ、それぞれ「優」、「良」、「まだ努力が必要」と表しており、また、各段階の割合についても、市レベルを基準として、当該学年の在籍生徒のなか、Aランクの割合が25%以下とし、Cランクの割合が5%以下とする（浙江省教育厅、2013）。各

高校は、大学入学者選抜のための参考資料として、生徒の「総合素質評価」に関する情報を大学に提供することが義務づけられており、大学側は、志願者の合計得点が同じ場合は、優先的に入学許可されることが可能になり、また、事前に選抜条件として「総合素質評価」の評価を設定できる（浙江省教育厅，2013）。こうして、大学側は「総合素質評価」をいかに選抜メカニズムに取り入れるかについて一定の裁量権を持っているが、「総合素質評価」の結果は参考程度の利用に止まっている。

そして、浙江省の公布した書類によると、合格の判断基準は受験者の順位になる（浙江省教育厅，2014）。受験者順位は、「高考」の必須科目と選択科目の合計得点によって順位が決定される。受験者の合計得点が同じ場合は、国語と数学の合計得点、国語または数学の得点、外国語の得点、選択科目の得点によって順位が決定され、全ての条件では同じ場合は同じ順位となる（浙江省教育厅，2014）。例えば、A 受験者の国語の得点が 130 点、数学の得点が 120 点、B 受験者の国語の得点が 110 点、数学の得点が 140 点と仮定すると、A 受験者の最高得点の 130 点が B 受験者の最高得点の 140 点より低い。したがって、B 受験者が A 受験者より上位に順位付けされている。この順位付け方を使用するのは、文系・理系が分かれなくなり、国語と数学が受験者のリテラシーの基礎であることされるため、国語と数学の得点がまず考慮され、次に外国語と選択科目の得点が考慮される。上記の条件がすべて同じであれば、「総合素質評価」の結果は、「高考」の入学者選抜に影響を及ぼすことが可能である（浙江省教育厅，2014）。

以上を踏まえ、浙江省における「高考」改革は、全国統一試験としての「高考」の見直しが進んでいるが、実際には依然として選抜機能が重視され、教育の多様性を前提とした接続の視点が限定で、評価尺度の多元化がそれほど進んでいないと考えられる。

2.2. 「核心素養」及び「2017 年度高校教育課程」の改訂

2.2.1. 「立德樹人」と「キー・コンピテンシー」を発端としての「核心素養」

中国では、「受験教育」を重視するという文化が深く

根付いており、「素質教育」が成績至上主義を擁護する「高考」制度の前では弱い立場にあり、生徒、保護者、教員、学校などさまざまな利害関係者からすると、「素質教育」の必要性が理解していても、「素質教育」が重視する「德育・知育・体育・美育の全面的な発展」が、大学入学試験の点数に比べてそれほど重要ではないとされているからである（范，2021）。また、「通常の授業が『素質教育』に絶え間なく掻き回された」「『素質教育』が予期した効果に達することが困難である」という政府、教育行政機関の計画に不信感を表明した批判も殺到した（中国教育報，2013）。さらに、「『素質教育』は、理論的にも実践的にもまだ多くの課題が抱えている状況で、理念として掲げられるが、具体性が欠如し、現実と切り離しているところがあることから、いかに実践に移すことができるかが困難である」（柳，2014）と批判が加えられた。そのうえ、『素質教育』が求めるのが、「全面的な発展」だからこそ、空疎かつ抽象的、不確実的な概念となってしまうと、『素質教育』が教育用語ではなく、人々の感情を喚起するためのスローガンに過ぎないという消極的な観点も噴出してきた（楊，2006）。

「素質教育」の効果的な実施が滞って進展が微々たるものであった結果、「立德樹人」という新しい教育理念が 2012 年の中国共産党第 18 回大会で提唱され、「立德樹人」が教育の「根本任務」として、一番に挙げられていることを確認できる（中国共産党第 18 回大会会議報告書，2012）。

「立德樹人」を和訳すると、「道徳の養成を通じて人材を育成する」と解釈することができるが、中国共産党第 18 回大会会議報告書によると、「立德樹人」が目指しているのは、「德育・知育・体育・美育・労働精神の全面的な発展に達する社会主義建設者と後継者を育成し、中華優秀伝統文化の教育体制を整え、学習を愛し、労働を愛し、祖国を愛する活動の効果的形式と長期的体制の形成により、生徒の社会責任感、革新精神や実践能力を増強させる」ことである（中国共産党第 18 回大会会議報告書，2012）。このように、「立德樹人」が「素質教育」が求める「全面的な発展」という目標を受け継ぎながら、社会主義、伝統文化への理解やナショナル・アイデンティティの形成を代表としている「德育」の重要性が強調

されたと考えられる。ここで示している「徳育」に政治的性格があることをうかがえるが、「空疎かつ抽象的、不確定的」と批判されてきた「素質教育」の転換を一つの新しい切り口で試みることが可能になったと考えられる。いわゆる、「徳育、知育、体育、美育、労働精神」のなか、徳育を前面に出し、徳育を通じて他の面の発達を促すという教育に対する考え方が示されていることが示唆される。

さて、コンピテンシーに基づく教育(Competency-based Education,以下 CBE)は、新しい時代に対応できる力を次世代の若者に身につけさせるための「新しい」教育の在り方として、今や国際共通的なものになりつつあり、そこで OECD（経済協力開発機構）による DeSeCo(Definition and Selection of Competencies)計画が、キー・コンピテンシーを定義・選択した基準を決定し、①「異質な人々から構成される集団で相互に関わり合う力」②「自律的に行動する力」③「道具を相互作用的に用いる力」を3つのキー・コンピテンシーをとって定義した（白井，2020：p.6）。この能力枠組みが、各国の学校教育で目指す能力観に大きな影響を与えているとされており、さらに、それまでの内政的性格が強かった各国のカリキュラムにまでも影響を与えることになっている（白井，2020）。中国も例外ではなかったと言える（辛ら，2013：pp.5-11）。中国国内では、「徳育を優先する」という「立德樹人」をめぐる議論の以外、国際的能力観をめぐる議論の下で、効果的实施が困難である状態にとどまっていた「素質教育」のもう一つの新たな転機が訪れたと考えられる。それは、2016年9月、北京師範大学教授をはじめとして、各大学合わせて100名以上の研究者で作られた「核心素養研究グループ」によって発表された「中国における生徒育成のための核心素養」（以下、「核心素養」）である。

「核心素養」が提出された最も重要な目的として、『素質教育』を推進するための要件を具体化し、洗練させることで、『どのような人を、どのように育成するのか』の明確化」ということが、すでに2014年に公布された中国教育部の「課程改革の全面深化及び根本任務としての『立德樹人』の達成に関する教育部の意見」（原語：「关于全面深化课程改革落实立德树人根本任务的意见」）で明

らかになった。また、「核心素養研究グループ」研究者の代表者が発表した「核心素養」をめぐる論文で、『核心素養』が、教えられるもの、学べるものだけでなく、測定可能なものであり、『核心素養』モデルで規定されている生徒の能力に応じて、教育現場で評価することができる」という特徴を備えるべきだと明記されている（林，2016）。こうして、「核心素養」が教育実践への反映が困難であるという課題を抱えてきた「素質教育」の処方箋になるとも考えられる。

「核心素養」の一般的枠組みは、「人間の全面発達」という概念を中心に、「文化基盤」、「自主発展」、「社会参加」の3つの分野に分けられ、「人文造詣」、「科学精神」、「学習方法の学習」、「健康生活」、「責任」、「イノベーション」の6つの「素養」で表現されている（核心素養研究グループ，2016）。そのうち、「文化基盤」は、人文科学の各領域の知識を修得し、寛厚な文化を持ち崇高な精神を追求する人材を育成することである。「自主発展」は、自己の学習と生活を管理し、自我を認識および発現し、自身の潜在能力を発展させ、複雑で可変的環境に適切に対応し、明確な価値観を持つ人間を育成することである。

「社会参加」は、個人と社会との適切に関係を構築し、現代の公民が遵守すべき道徳規則や行為規範を育て、社会の責任感を増強し、イノベーション精神を高め、個人の価値を実現し、社会を発展させ、理想と信念や責任をもつ人間を育成することである。また、「文化基盤」、「自主発展」、「社会参加」の下位には、それぞれ2つの項目が位置づいており、各項目もそれぞれ複数の基本要素から構成されている（核心素養研究グループ，2016）。こうして、中国ではキー・コンピテンシーを中国における「核心素養」としてローカル化という形で、育成すべき資質・能力の再定義が図られ、さらに教育課程でより具体的な資質・能力の在り方についての議論がなされていったと考えられる。

2.2.2. 「立德樹人」と「キー・コンピテンシー」を発端としての「核心素養」

2016年9月、上記の「核心素養」が議論されるなか、翌年には、同枠組みに基づく「2017年度高等学校課程および課程基準」（以下、「2017年度高校課程」と略記）が公

表され、2003 年以来初めての改訂となった。

「2017 年度高校課程」では、その原則として、「素質教育」の発展があり、従前より図られてきた「素質教育」の継続的な推進、「核心素養」の実践を目指す。改訂の主な点は次のとおりである（中華人民共和国教育部, 2017）。
1 つ目は、高校における教育の位置づけを明確にすることである。高校教育は義務教育の基礎のうえに国民の素質を向上させ、さらに大衆のニーズに適合する必要がある。生徒の個性の発展を促し、社会生活に適応し、高等教育への進学や就職のための準備を行い、生涯の発展のための基礎を固めることが期待される。また、高校の教育目標は、生徒の全面的な素質を向上させ、核心素養を発展させ、生徒が理想・信念・社会責任感をもち、主体的に発展する能力と他者との意思疎通・協力する力を身に着けることであるとして、育成を目指す能力として「核心素養」が含まれている（中華人民共和国教育部, 2017）。
2 つ目は、教育課程の構成を適切とすることである。具

体的には、従来の科目は維持しつつ、外国語の種類を増加させた。英語、日本語、ロシア語を基礎として、ドイツ語、フランス語、スペイン語を加えた。また、科目ごとに、必修、選択必修、選択課程を区別し、基礎を保証しつつ、多様な生徒にとって適切な学習が可能となるよう、履修科目の選択性を高めた。さらに、各科目の効果や位置づけを明確にし、必修課程は、生徒の全面发展に必要な学習として位置づき、生徒は全てを履修し、試験によってその達成度について評価を受けることとする。一方、選択必修課程は、生徒の個性の発展や大学受験対策として設けられ、選択課程は学校のおかれた状況に応じて設けるもので、就職あるいは大学受験の準備としても提供される。なお、各科目の単位数の割合も変更された。卒業に必要な単位数は変わらないが、選択課程の単位数を増加させ、選択性を強化した（中華人民共和国教育部, 2017）。

その具体的な課程における履修科目と単位を示した

表 4. 2007 年度高等学校教育課程

科目	必修単位	選択必修単位	選択単位
国語	8	0~6	0~6
数学	8	0~6	0~6
外国語	6	0~6	0~6
思想政治	6	0~6	0~4
歴史	4	0~6	0~4
地理	4	0~6	0~4
物理	6	0~6	0~4
化学	4	0~6	0~4
生物学	4	0~6	0~4
技術	6	0~18	0~4
芸術	6	0~18	0~4
体育与健康	12	0~18	0~4
総合実践活動	14		
学校独自の教育課程			8 以上
合計	88	42 以上	14 以上

出典）中華人民共和国教育部, 2017 年, 「普通高中課程方案」（2017 版）人民教育出版社, pp. 5 - 6 をもとに筆者作成

のが以下の表4である。

表4に示す国家課程で、各高校ではそれに加えて、学校独自の教育課程（原語・校本課程）を設置でき、8単位以上が設けられ、また、上記のとおり、「外国語」には、英語、日本語、ロシア語、ドイツ語、フランス語、スペイン語が含まれ、各高校で第一外国語を選択し、第二外国語の科目の開設も奨励される。「技術」には情報技術と一般技術が含まれ、必修内容は各3単位で設計される。

「芸術」には音楽、美術が含まれ得るが、具体的な科

目は各高校が決定する。「総合実践活動」の14単位は、研究性学習、党団活動、軍事訓練、社会考察等が含まれ、研究性学習は6単位とする。研究性学習では、生徒は2つの課題研究を設計し、教科横断的な研究を主体的に行うことが求められる。卒業にあたって生徒は144単位以上を修得する必要がある、そのうち必修課程は88単位、選択必修は42単位、選択は14単位とされている基準は2003年度高校課程と比べると変わらないが、選択課程の単位数を増加させ、選択性を強化した。選択性の強化は、

表5. 高等学校教育課程における国語の「核心素養」の各水準の基準

水準	各水準の基準
1	・自発的に言語を蓄積し、習得した言語を分類する。 ・生活に目を配り、観察したことを記録する。 ・文脈やコミュニケーションに応じて言語を理解し、適切に表現する。 ・自分の言語学習経験を振り返る。
2	・積極的に言語を構築し、さまざまな方法で整理し、単語間のつながりを発見する。 ・言語の隠された意味や感情を理解する。 ・言語使用における明らかな問題を認識し、それを修正するために言語に関する知識を活用する。 ・自分の言語学習経験を振り返る。
3	・言語を蓄積・整理し、言語のつながりやパターンを探求し、言語使用の規則を理解する。 ・言語に関する知識を応用し、テキストの意味と意義を理解する。 ・文脈や表現の目的・要件に応じて口語や文語を使って明確に表現する。 ・学習の質と効率を高めるために、意識的に言語学習を計画する。
4	・継続的に言語を蓄積し、習得した言語や言語活動を組織化する。 ・言語使用のルールを自分自身の言語解釈に応用する。 ・表現の正しさや適切さを判断し、その意味や内容を理解する。 ・文脈や目的・要件に応じて自分の考えを正確に表現する。 ・自分の学習経験を他者と共有する。
5	・言語使用のパターンを探求することに興味を示す。 ・学習した言語と文学作品との関連性を識別し、さまざまな作品を理解し鑑賞する。 ・文脈の中で適切な表現を選択し、効果的に使用する。 ・口語や文語で効果的なコミュニケーションをする。 ・自分の言語学習を計画し、他者と学習経験を共有し、率先して手助けする。

出典) 中華人民共和国教育部 2020「普通高中語文課程標準」人民教育出版社、pp.35-39 をもとに筆者作成

「高考」の改革で科目選択が可能になることに対応した政策調整と考えられる（中華人民共和国教育部，2017）。

また、2017年度高校教育課程では、各教科における核心素養の具体的な目標、授業実践が具体的に定められている。例えば、国語では、核心素養とは、生徒が能動的な言語実践活動の中で蓄積・構築・表現する言語技能に関する資質・能力およびその資質、すなわち、国語の学習過程で身につけた知識・能力、思考力、感情、態度、価値観の総合的な体現を定義しており、「言語の構築と運用」、「思考の発展」、「審美鑑賞と創造」、「文化伝承と理解」の4つ部分で構成される。そして、各教科における核心素養の到達する水準も5段階に区分され定められている。これによって、高校教育における授業実践および学習のあり方があらかじめ方法付けられたといえる（中華人民共和国教育部，2017）。

以上を踏まえ、素質教育の抽象性や実現難しさによって、キー・コンピテンシーの中国の翻案として、より高次の学習理念と考えられる「核心素養」が提唱され、また、高校教育課程で各教科の「核心素養」が定められ、達成水準も方向付けられた。

2.3. 大学教育改革における教育マネジメントの改善

2.3.1. 大学教育の質的向上への重視

中国では、高校は、大学への進学率等により評価されるため、「高考」への対応へ軽視できないと考えられる。「高考」で難問が出題されれば、これを含む難易度まで指導内容を引き上げる必要があり、学生の負担が大きくなるという悪循環を生み出すものとなっている。これにより、前述した「高考」改革の評価指針が示しているように、中国教育部は、新しい「高考」評価指針において、「知識」を考查することから、「能力」を考查することへ、問題を「解く」ことから問題を「解決」する能力を考查することへ重点を移すことを強調しており、「高考」では、難問・奇問の出題を避け、「高考」の出題要綱、教材への回帰を強く打ち出しており、各教科においては、基礎的な知識能力をはじめ、様々な事象・データ・情報などの知識を結びつけて独自に考える総合力、総合力を現実的・具体的な問題の発見・解決に結びつける応用力、現実的・具体的な問題を反映した能力を考查することを主

眼としている（中華人民共和国国務院，2014）。

高校教育は知識内容部分を合理的に削減し、基礎的知識能力、総合力、応用力の考查に重点を置くことにより、詰め込み教育の負担を軽減している一方で、大学教育の質的問題が徐々に重視されるようになってきたと考えられる。中国教育部が、2018年6月に、全国の行政の教育部門、大学の管理者、教員など約5万人を動員して開催した、高水準学部課程教育建設に関する全国大学学部課程教育会議では、「高水準学部課程教育建設の加速と人材育成能力の全面的向上に関するガイドライン（原語：关于加快建设高水平本科教育全面提高人才培养能力的意见）（案）」が発表され、意見が求められた。当該ガイドラインでは、政治思想教育の強化や、德育・文化教養教育の重視、教員の質の向上、教員評価制度改革、情報技術と教育の融合、海外大学との共同プログラムの推進、ダブルディグリー・ジョイントディグリーの推進などの項目に上る、学部課程教育のレベル向上に向けた政策が盛り込まれている。そのうち、大学教育の質保証・評価システムを強化する措置として、行政・大学・評価機関の分離、質の面で問題を抱えている大学に対する行政による特別監督・指導の実施；リアルタイムモニタリング、定期評価、特定項目に関する監督指導を組み合わせた新たな形の評価システムの構築；自己評価制度の強化と内部質保証の健全化などが示されている（中華人民共和国教育部，2018）。

そして、2019年7月、中国で全国の学位授与を管理している、国務院学位委員会²⁾から学士の学位授与制度の整備を目的とした、「学士学位授与と授与管理に関するガイドライン（原語：学士学位授权与授予管理办法）」が発表された。中国で学位制度が創設されて以来、高等教育は量的拡大を遂げる一方、学士の学位の質保証や、時代の要請に応じた学際的な知識・技能を有する人材の育成を可能にする学位制度が求められるようになってきた。中国国務院は、これまで修士・博士学位授与と機構に対して定期的な評価を行ってきたが、学士学位授与機構の質評価を行うために、学士の学位授与制度に組み込む。具体的には、学士学位授与機関と学位授与質保証システムは、省レベルの学位委員会が構築すると規定されており、学位授与後に「学位授与質評価」を実施し、学位授与機

関に対し、卒業論文など学位授与の質に関する資料を無作為に抽出し、定期的な抜き取り検査を実施する。学位授与機関の質に問題があると判断された場合、行政指導、募集停止、学位授与権の剥奪などの措置がとられる可能性がある（中華人民共和国国務院，2019）。

それに加えて、中国教育部が 2019 年に発表した「高等教育・教学改革を深化させ、人材育成の質を全面的に向上させることに関する教育部の意見」（原語：教育部关于深化本科教育教学改革全面提高人才培养质量的意见、以下、「意見」と略記）では、質保証システムの整備が大学教育改革の重点の 1 つとされており、主に「教育課程編成・実施」、「卒業認定・学位授与」を軸に、大学がどのような姿勢で教育に取り組んでいくかに関する教育マネジメントの意見を示している。「教育課程編成・実施」については、学習・自主的学習時間の確保、読書量・身体鍛錬の増加がまず強調される。次に、各大学では、教育課程の内容と実施方法に関する方針を定めるなかで、共通科目、専門基礎科目、専門科目の比率の最適化や大学として保証すべき教育の内容や水準を確保できる体系的な教育課程の編成が求められる。さらに、授業科目として行う企業内実習、インターンシップ等の取り組みの推進やこれらの実習・実践活動の留意事項や進め方に係る制度の形成が求められる（中華人民共和国教育部，2019）。そして、「卒業認定・学位授与」については、まず、卒業単位の取得と卒業要件をクリアしたうえでそれらの能力を習得した学生に学位を授与するに関わる各授業科目の評価基準としては、筆記試験、口頭試験などの多様な形式を総合的に適用し、教室での質疑応答、研究レポート、宿題評価、ステージクリアテストなどの評価の割合を科学的に決定することで学力評価システムを改善することが求められる。また、卒業論文の審査項目を合理的に策定し、卒業論文の作成の全過程を厳格に管理し、各種の学業上の不正行為に厳重に対処することが求められる。次に、主専攻と異なる学問分野に属する副専攻の履修とともに、ダブルディグリープログラム人材育成計画の策定、複合型人材育成のダブルディグリープログラムの開設などより多様な形の学位授与の今後の更なる推進が求められる（中華人民共和国教育部，2019）。

2.3.2. 入学者受け入れ方針に関する大学の自主権の拡大

「教育課程編成・実施」や「卒業認定・学位授与」の厳格化といった国の指示に伴い、浙江省における「高考」改革は直接的に入学者受け入れ方針にも影響を及ぼしている。

前述したように、浙江省では、全ての省内の受験者は、前年度の募集状況をまとめた冊子を参考にして、6 つの大学を第 1 志望校から第 6 志望校までとして順序づけ、そして、各大学の 6 つの学科を第 1 志望学科から第 6 志望学科まで志願が可能である。6 月月末に、「高考」の個人成績と省内の全体の受験者における順位が開示されることになる。それと同時に、試験センターは各大学の募集人数や受験者の受験状況を勘案し、受験者が出願できる大学を 1 期・2 期・3 期という 3 つのグループに分けられ、グループ別の合格ラインが発表される。このように、7 月中旬から 1 期、7 月下旬から 2 期、8 月上旬から 3 期という順番で大学は入学者選抜が行われる。大学側の選抜方式としては、本学・学科を第 1 志望校・学科として出願する志願者の成績順に並べ、募集人数範囲内の順位の志願者が合格する。合格した第 1 志望者全員の数が大学の募集人員より少ない場合は、その大学を第 2 志望とする志望者を成績順に並べ、合格者を決定していくという形であった（浙江省教育考院，2011a）。

例えば、志願者アと志願者イがいて、志願者アの得点が高いとする。志願者アと志願者イとも X、Y 大学に出願したとする。そして、志願者アが X 大学を第 1 志望校、Y 大学を第 2 志望校；志願者イが Y 大学を第 1 志望校、X 大学を第 2 志望校とする。志願者アが X 大学の第 1 志望者の中で、募集人数以内の順位に位置すれば、X 大学に合格する。しかし、志願者アが第 1 志望校 X 大学に不合格になり、さらに、第 2 志望校 Y 大学が募集人員を充足しているならば、合格者の最低得点より、高い得点を取っていた A であっても Y 大学には不合格となる。一方、志願者イは、Y 大学の第 1 志望者の中で、募集人員以内の順位に位置すれば Y 大学に合格するとする。その結果、志願者アより成績の低い志願者イが Y 大学を第 1 志望校としたため、Y 大学に進学することが可能になるのに対して、志願者アは、志願者イよりレベルの低い大学に進学することになる。

一方、「高考」改革では、志願者は、「大学+専攻」というより緻密で効率的な形式で志願することができるようになる。出願方式は、6つの大学と各大学6つの学科合わせて36の選択肢があったことに対して、大学・専攻を自由的に組み合わせた80の選択肢があることになった（浙江省教育厅，2014）。また、受験者の浙江省において「高考」での総合順位によって、大学への出願順が決定される。受験者全体の割合に応じて、上位20%、上位60%、残り全員の3期に分けて出願することになる。1期に属する受験者は優先して大学に出願でき、1期で入学できなかった受験者は2期と一緒に出願できるというような形になる。大学側もこれに応じて、選抜方式を変更した。まず、利用科目を各大学が自由に指定できるアラカルト方式により、各大学がその大学・学部に必要な受験科目を指定することができる。例えば、物理関係の専攻は、志願者に物理の「高考」の成績が要求され、この場合、物理を選択科目としていない者は志願する資格がないことになる。次に、選抜作業に関しては、志望順位を設定せずに、志願者がいくつかの志望校を並べて出願できるため、志願者全員を成績順に並べ、得点の上位者から出願先を決めていく。一人の志願者に対して、志願の最初に並べた大学の定員数が充足した場合、志願に並べた次の志望校・学科に移動し、志望校・学科の範囲内の合格する大学が決まるまでこのような作業が続く（浙江省教育厅，2014）。

例えば、志願者アと志願者イがいて、志願者アの順位が高いとする。志願者アと志願者イともX、Y大学に出願したとする。順位が高い志願者アの合格は優先される。X大学の募集人員が充足されたら、Y大学に移動し、募集人員内の順位であれば、Y大学に合格する。志願者アが合格する大学が決まったら、順位が低い志願者イが合格する大学を決めていくという形になる。

以上のことから、「高考」改革前の志願方式は、志願者の志望校・志望学科が最も重要な要素として合格者が決定され、最大限に志願者の志望を満足させる同時に、大学側も大学・学科に最も関心のある志願者を選抜することができると考えられる。一方、成績が比較的に高かったにもかかわらず、第1志望校に合格できず、第2志望校、第3志望校に落ちた志願者もいれば、全落ちした

志願者もいる。そのため、大学に志願する際に、志願者は独自の興味関心や大学・学科の倍率などについて十分に配慮しなければならないと考えられる。「高考」改革後の志願方式は、各大学がその大学・学部に必要な受験科目を指定することができるにもかかわらず、志願者の志望よりも、順位が高ければ合格できるので、成績を重視することが示唆される。

3. 浙江省における「基礎分野学生募集」

3.1. 浙江省における「基礎分野学生募集」の実際

3.1.1. 基礎学科重視の「基礎分野学生募集」の導入

中国では、2003年には「自主学生募集」（原語：「自主招生」）制度が導入された。これは、学力試験を基礎とし、各大学での多様な評価に基づいて合格者を決定する制度の充実や大学の運営自主権のいっそうの拡大を目的として、大学が自主的に選抜・受け入れを行う制度である。各大学が自ら定めた条件に合致した者に対して自ら学力試験や面接試験などを行い、あわせて全国統一大学入学試験で基準に達すれば合格となる。「自主学生募集」の導入以来は、面接やグループディスカッションなど様々な方法で学生の能力や資質を総合的に評価することや、「高考」の結果のみを基準とする画一的な選抜方式からの脱却も、教科・科目の優秀な人材の選抜に効果を発揮しているが、「自主学生募集」の拡大に伴い、難問・奇問の出題、受験者の資質や能力の評価の妥当性、面接の採点基準の不明確、採点の信頼性の低下、公平性・公正性問題などの問題が浮上している。また、入学後教育については、「自主学生募集」で入学した学生と通常「高考」で入学した学生は入学後に同じく教育課程が採用され、選抜と入学後教育の接続という問題は、依然として存在する（賈，2020）。

中国教育部は、「自主学生募集」の問題の改善を念頭に置き、科学技術の発展に関わる国家戦略のニーズを満たし、幅広い優れた能力・資質もしくは特定の学問分野で突出した才能を持つ者を選出し、基礎学問分野における高度人材を育成することを目指す「基礎分野学生募集」を導入した（中華人民共和国教育部，2020）。2020年に中国教育部が公表した「一部の大学において基礎学科を対象とする生徒募集改革の試行に関する意見」（原語：教

教育部关于在部分高校开展基础学科招生改革试点工作的意见)では、「基礎分野学生募集」の趣旨、入学者選抜および入学後教育の実施に関する規定が以下のように述べられている。

「基礎分野学生募集」は、国の重大な戦略ニーズに向け、総合素養が優れるまたは基礎学科で能力抜群な学生を絞って育てることを宗旨とする。対象領域は、ハイエンドチップ・ソフトウェア、インテリジェント技術、新材料、先進製造、国家安全等のコア領域及び国にとって切迫して人材を必要とする人文社会科学分野などとした（中華人民共和国教育部，2020）。「基礎分野学生募集」を導入する大学は、自らの教育理念と教育課程の特長を踏まえ、数学、物理学、化学、生物、歴史、哲学、古文字学の7学問分野を中心とする入学者選抜実施と教育課程の編成が求められる。教育部は、専門家を組織した上で検討を加え、「1校1政策」の原則に従い、「基礎分野学生募集」の対象大学、学科や採用人数などを決めることになっている（中華人民共和国教育部，2020）。

手始めとして、北京大学、清華大学、中国人民大学など中国を代表する36校を対象に、「基礎分野学生募集」を先行的に実施されることとなり、対象となった大学は、関連専攻の学生募集や人材育成一体化計画を教育部に提示、申請するし、独自の特徴を踏まえて基礎学科で突出した学生を選抜・育成するための学生募集方法を構築することができる。対象大学は、「基礎分野学生募集」で定められた重点学科の募集において、既存の「高考」で相応の点数に達し、かつ同校に願書提出の受験者に対して総合評価を行い、そして受験者の高校段階の「総合素質評価」も考慮した総合的な評価を踏まえて付けた総合点数を基準とし、順次採用することとする（中華人民共和国教育部，2020）。対象大学は、「基礎分野学生募集」で入学した学生の育成について、単独かつ少人数のクラス編成、特別の指導教員制の導入、修士・博士課程進学への特別配慮、科学研究課題への関連付け等を配慮した特別教育課程を立てるよう求められる。同制度の導入に伴い、従来の一部の大学で実施していた大学が自ら基準を決めて採用する「自主学生募集」は、2020年より中止することが決定された（中華人民共和国教育部，2020）。

3.1.2. 浙江省における「基礎分野学生募集」の特徴・実施方式

「基礎分野学生募集」は従来の「自主学生募集」の方式を比較してみると、以下の特徴が見られる。

まず、公平性を確保するために、募集対象の再分類を試みている。学業成績が優秀な者と学問分野で優れた才能を持つ者をそれぞれ第1グループ、第2グループに分けてグループの属性に従って選抜する。そして、グループ別の評価仕組みも明示している。第1グループ志願者に対して、「高考」の結果、総合考査の結果（そのうち、「高考」の成績の割合が85%以上でなければならない）などに応じて評価する；第2グループ志願者に対して、各大学は各学科の評価基準などをあらかじめ策定し、事前に社会に公表し、関連科目分野の専門家によって厳格な評価を実施し、入学基準を満たした者のリストを地方の大学入学委員会に報告した上で入学が承認される（中華人民共和国教育部，2020）。

次に、選抜手続きの面では、「基礎分野学生募集」では、出願書類の偽造などの不正行為に対する取り組みとして、「自主学生募集」の加点項目となった論文や特許などが取り消された。そして、「自主学生募集」は、「高考」の得点が一定の基準に達した者を対象とし、書類審査、学力試験や面接等の独自の選抜を行い、合格候補者を決め、次に優遇措置として、合格候補者の「高考」の得点到10点～60点を加点し、加点後の点数で最終的な合否判定を行う（賈，2020）のに対して、「基礎分野学生募集」は加点政策を採らず、「高考」の結果と大学独自の総合考査の結果を一定の比率で足し合わせて算出した成績によって選抜が行われる（中華人民共和国教育部，2020）。

「基礎分野学生募集」の実施方式について、各大学はあらかじめ募集要項として、前述したように、以下の3つの要素を提示する。①「高考」の成績②各大学が個別に実施する筆記試験③、各大学が個別に実施する総合面接の結果を一定の比率で足し合わせて、総合成績を算出し、その成績に基づいて合否が決定される。そのうち、学力試験の方法については筆記試験、面接試験などが推奨されており、受験者の思考力・創造力・問題解決能力を中心に評価し、評価基準を明確にし、評価の妥当性と信頼性を高めることが求められている。なお、各大学が

個別に実施する総合評価で、「総合素質評価」を利用することが可能で、利用方法については各大学が独自に決定できる（中華人民共和国教育部, 2020）。

「基礎分野学生募集」の実施方式は、「三位一体入試」の可否判定の方法と共通している部分があるが、「三位一体入試」のなかの「高考」の成績の比率が50%と規定しているのに対して、「基礎分野学生募集」では、85%以上に設定しなければならないと規定されている（中華人民共和国教育部, 2020）。しかし、「三位一体入試」が実施された当初は「高考」の成績の比重が一般的に50%である一方、表1—4によると、2012年—2024年浙江省内の6大学における「三位一体」入試の総合成績のなかの「高考」の比重は主に、「基礎分野学生募集」が導入された2020年頃から上昇する傾向にある。その中、浙江大学は、「三位一体入試」と「基礎分野学生募集」と共に、「高考」の成績の比重が85%と規定していることになる。そして、2020年には浙江省においてはすでに「高考」改革が行われている背景と照らし合わせて考えてみると、「基礎分野学生募集」は、受験者の教科・科目に関する基礎学力の確保を重視する傾向が見られ、可否判定の方法と共通している部分がある「三位一体」入試には一定の影響を持っていると考えられる。

浙江省における「基礎分野学生募集」の実施方式の具体例として、浙江大学2020年～2024年の「基礎分野学

生募集」の募集方式を整理すると、以下のようになる。まず、募集方式については、2022年前後に変化が見られる。2020年～2022年の方式については、6月から7月にかけて、第1次審査（「高考」の成績と書類審査）と第2次審査（大学が個別に実施する筆記試験・総合考查と体育測定）の2段階で行われる。出願者は6月に「高考」を受験した後、試験の成績や調査書や実績を証明する書類を大学に提出して出願する。大学は「高考」の成績や書類の審査に基づき、第1次審査の合格者を決定する。第1次審査の合格者は、7月に大学が個別に実施する筆記試験・総合考查と体育測定を受け、可否が決定される。

一方、2023年～2024年の方式については、4月から7月にかけて、第1次審査（書類審査）と第2次審査（各大学が個別に実施する筆記試験・総合考查と体育測定と「高考」の成績）の2段階で行われる。4月に出願者は「高考」の必須科目を受験しておらず、調査書や実績を証明する書類を大学に提出して出願する。大学は書類の審査に基づき、第1次審査の合格者を決定する。第1次審査の合格者は、「高考」の選択科目と必須科目を受験し、「高考」の成績発表に先立ち、大学が個別に実施する筆記試験・総合考查と体育測定を受け、可否が決定される。「基礎分野学生募集」において出願時期・出願種類や選抜時期の変化は、「基礎分野学生募集」の選抜性が高く、欠員が生じるに関係していると考えられる。

表 5. 2020～2024 年度浙江大学「基礎分野学生募集」における総合考查の募集方式

募集方式		2020 年～2022 年	2023 年～2024 年
出願	出願時期	「高考」必須科目の受験後 (6 月)	「高考」必須科目の受験前 (4 月)
	出願書類	「高考」成績・調査書	調査書
選抜	選抜時期	「高考」成績の発表後 (6～7 月)	「高考」成績の発表前 (6～7 月)
	選抜内容	個別考查	個別考查

出典) 2020～2024 年度浙江大学「基礎分野学生募集」募集要項をもとに筆者が作成

また、募集対象については、第1次審査については、「第1グループ」と「第2グループ」が設けられ、それぞれの審査基準が異なる。「第1グループ」の対象は、総

合素養が優れ、学業成績が優秀な者になり、「高考」の成績の所定の点数を超えることか、調査書や実績を証明する書類を提示することが求められる。「第2グループ」は、

学問分野で優れた才能を持つ者が求められ、募集要項の内容からみれば、数学、物理、化学、生物、情報学のいずれかの分野において、全国的規模を有する大会で準優勝もしくはそれに準ずる成績を収めた者に限定されている。受験者は、個人状況に応じてどちらのグループに申請するかを選択することができる。

次に、評価方式については、先述したように、「高考」の成績を 85%、大学での考査の成績を 15%で合算して合否を決定する。大学での考査について、浙江大学の場合は、筆記試験と総合評価によって構成されている。

1. 筆記試験

「高考」の成績発表に先立ち、第 1 グループに属する受験者は、大学が主催する筆記試験を受ける。筆記試験の科目は、出願専攻によって変わるが、基本的に理系は数学と物理あるいは数学と化学、基礎医学系は物理と化学、人文歴史系は国語と歴史になっている。筆記試験の結果に基づき、大学は各省の募集計画数の 5 倍（2020 年度のみが 4 倍）に応じて、総合評価の候補者リストを決定し、候補者リスト及び候補者リストの決定基準を公布する。

2. 総合面接

筆記試験に合格した第 1 グループに属する受験者は、大学が主催する総合面接を受ける。第 2 グループに属する受験者は、筆記試験が免除され、第 1 グループに属する受験者と分けて個別の面接を受ける。公表されている募集要項によると、以下の表で示している通り、総合面接の評価ポイントは、年によって重点が変わるが、主に受験者の道德面や能力面がメインであると確認できた。これは、德育を前面に出し、德育を通じて他の面の発達を促すという教育に対する考え方を発端とした「核心素養」の要請に応じて設計されていると推測できる。

また、「総合素質評価」の利用方式について、2020 年～2022 年度の募集要項では、社会的実践（ボランティア活動）、高校における課外活動、「高校学業水準試験」の結果、探究型学習、スポーツ・文化芸術活動の参加状況といった項目に重点をおいて評価すると公表している。一方では、2023 年度から、「総合素質評価」の利用方式については、「面接の重要な参考資料として使用される」としか言及されていない。

表 6. 2020～2024 年度浙江大学「基礎分野学生募集」における総合面接の評価ポイント

年度	総合考査の評価ポイント
2020 年	道德品質、文化素養、論理思考、興味関心、創造能力、潜在能力
2021 年	道德品質、誠実性、専門知識、基礎学力、総合能力
2022 年	道德品質、総合素養、批判的思考力、革新能力、潜在能力
2023 年	理想信念、志向性、興味関心、思考能力、創造能力
2024 年	理想信念・国民性、志向性・興味関心、好奇心・探究心、 問題解決能力・批判精神、思考能力・潜在能力

出典) 2020～2024 年度浙江大学「基礎分野学生募集」募集要項をもとに筆者が作成

3. 体育測定

体育測定の項目は、身長・体重（BMI）、肺活量、立ち幅跳び、長座体前屈、50 メートル走などによって構成されている。成績には算入しないが、同得点の場合は順位付けの基準となる。さらに、選抜方式について、総合成績は、「高考」の成績（85%）と大学が個別に実施する総合考査の結果（15%）で構成される。そのうち、総合考査の成績は、筆記試験

の成績と総合評価の成績を 2 : 1 の割合（2020 年度が 1:2 となった）で換算する。そして、「高考」成績が、各省の第一期入学の合格ラインに達した上で、大学が個別に実施した全試験に参加した受験者は、総合得点の高い順にランク付けされる。成績が同じ場合は、総合考査の結果、筆記試験の結果、「高考」の結果、体育測定の結果の順番によってランキングする。

3.1.2. 浙江省における「基礎分野学生募集」における入学後の学生養成モデル

入学後の大学における教育課程について、「基礎分野学生募集」では優遇措置がとられている。例えば、「基礎分野学生募集」による入学者は単独のクラスに編入し、特別な指導教員や一流な学習条件が提供されるほか、試験免除の大学院への推薦進学、公費留学や奨学金等の選考で優先的に採用することができる。また、学士課程の教育にとどまらず、修士・博士の教育課程を連携させる一貫制教育プログラムが整備されている。このプログラムにより、学士の段階で身につけた学問分野に関する能力や資質を修士と博士の段階でさらに発展させるとともに、卓越した知識と創造的な能力や資質をもつトップレベルの若手研究者を養成することが期待されている（中華人民共和国教育部, 2020）。

このような高度な人材を育成するには、教学面での質保証が不可欠である。「基礎分野学生募集」では、学生に対する定期的な資格審査試験を行うことが求められる。資格審査試験で不合格となった場合には、当該学生は「基礎分野学生募集」の教育プログラムで学修する資格を喪失し、一般課程に戻ることになっている。そして、一般課程から優秀な学生を選出し、欠員補充を行うことが可能とされている。また、学生の学修状況を総合的に評価しつつ、教育課程が有効に機能しているかを確認するため、成績データ、学修ポートフォリオ等のデータ収集・分析が定期的に行われる。さらに、在学生と卒業生を対象とする追跡調査を行い、データベースを構築し、学習や就職に関する情報を収集・分析することにより、入学者選抜と教育プログラムを継続的に改善・向上することが目指されている。

また、志願者は、各大学の公式ウェブサイトが公表している「基礎分野学生募集」の各大学・学科の人材育成計画について事前に確認することができる。浙江省において「基礎分野学生募集」を経て入学した入学者に提供する教育が具体的にどのような特徴を持っているのかについて、浙江大学の募集要項の内容から検討した。大学が提供する教育プログラムには、以下のように2つの特徴があるとまとめられる（浙江大学, 2020）。

1つ目は、特別カレッジの編成である。「基礎分野学生募集」による入学者は特別カレッジに編入され、特別人材育成モデルで育成される。特別人材育成モデルの特徴として以下のように挙げられる。まず、課程設置について、学部課程は、リベラル教育課程、基礎教育課程、専門教育課程の3つに分かれている。リベラル教育課程は、入

学者の全体的な質の向上に重点を置き、基礎教育課程は、幅広い教科知識を身につけ、入学者の将来の学問的発展の基礎を築くことに重点を置き、専門教育課程は、学生の確かな教科知識、実践能力、革新精神の育成に重点を置いている。次に、指導方式についてはメンター制度が導入されており、学生には専任教員をメンターとして配置し、その指導の下で科目履修にあたっては自らの関心にしたがったカスタマイズが可能である。さらに、特別カレッジとして運営されていることから、同プログラムの学生もそのアドバンテージを活かした読書会や講演会、課外交流活動などを寮生活の24時間をフルに活用して行っている（浙江大学, 2020）。

2つ目は、大学院教育との連携である。浙江大学が公布した学各科の人材育成計画によると、「基礎分野学生募集」による入学者は、「3+1+X」という特別学制を採用し、「3」は学部教育段階の一部、「X」は直接博士課程の一部、「1」は接続段階であり、そして、「3+1」は学部教育の全段階、「1+X」は大学院教育の全段階となる。また、段階によって育成計画が細分化されている（浙江大学, 2020）。

歴史学を例とすると、「3」の学部教育段階の育成計画としては、歴史学の理論的基礎知識、中国史・世界史・その他の歴史学分野の基礎知識・方法を体系的・総合的に把握して研究の基礎を固めること、学術研究の基本的な方法と手段を習得すること、コミュニケーション能力と高い外国語能力を有していること、国内外の歴史学の最新理論と発展方向を把握していることなど、基礎的学力・知識や言語力が求められる。「1」の接続段階の育成計画としては、歴史学分野で主体的に研究を遂行できる学問的資質を有していること、学生の革新的な感覚と革新的な能力を育成し、学問分野における良い基礎を築き、その後の博士課程のための研究水準を培うように目標を設定している。そして、直接博士課程の「X」の育成計画としては、歴史学、考古学など主要分野に焦点を当て、理論的知識、強い批判的・革新的思考、幅広い国際的視野を持ち、国家のニーズに応えることを志す、国家の主要戦略に知的支援を提供できる学者、育成することを目的としている。主な取り組みとしては、優れた研究チームによる共同研究の推進、研究費の支援、国際交流、国費留学などが挙げられる（浙江大学, 2020）。

以上のことから、「基礎分野学生募集」は、入学者選抜と大学教育を一体化させるやり方がとられている。大学教育では、特別な養成モデルが設けられ、特徴として特別カレッジの編成や大学院教育との連携が挙げられる。

ただし、これらのルートでの入学者数は、高学力層の極めて少数にとどまっており、多くの入学者は、依然として「高考」を核とする方法で選ばれている。

4. 結語

競争や勉強負担を改善することを目指し、浙江省では、2014年に「高考」改革が行われ、改革のポイントとしての「複数受験」や「科目選択」が可能になり、対応措置として、「素点+パーセンタイル順位による相対得点」といった新しい採点方式や「高考と学業水準試験との組み合わせ」といった選抜メカニズムの再構築が行われている。また、「知識」を考查することから、「能力」を考查することへとといった新しい「高考」評価指針の導入により、「高考」改革は、負担軽減を狙っているものの、さらなる負荷や評価仕組みの科学性の欠如といった課題も存在している。高校教育は、「高考」改革の対応措置や「素質教育」の抽象性の対応措置として、「高考」評価指針に従い、「素質教育」の高次的概念である「核心素養」に基づいて高校教育改革が行われた。高校教育課程において、履修科目の選択性の増加;選択科目の単位数の増加;各科目の効果や位置付けの明確化などが挙げられる。また、各教科における「核心素養」の具体的な目標や評価基準の明記も挙げられる。一方、大学教育は「教育課程編成・実施」や「卒業認定学位・授与」の厳格化や入学者受け入れ方針に関する自主権の拡大によって質的向上が徐々に重視されるようになった。そして、「基礎分野学生募集」は、新たな選抜方法と大学入学後の教育を一体的に組み合わせる試みで、総合的な資質が優れた学生を受け入れて特別な枠で養成することにより、国の重要戦略に必要な人材を送り出すことが目指されている。浙江省における「基礎分野学生募集」のあり方を踏まえ、選抜方法が総合的選抜を目指しているが、10年間実施されてきた「三位一体」入試の可否判定方法を引き継ぎ、特に「高考」の成績が重視されているということがわかる。また、大学教育では、特別な養成モデルが設けられ、特徴としては、特別カレッジの編成や大学院教育との連携が挙げられる。「基礎分野学生募集」はごく少数の高学力層を対象としているため、選抜と大学教育における養成を結びつけているものの、高校教育との結び付けが德育重視に限られている。

<注>

- (1) 張(2023)では、主に「三位一体」入試について検討した。
- (2) 国務院学位委員会は、「中華人民共和国学位条例」に基づき設置され、全国の学位授与の管理とそれに関連する業務を行う機関である。学位を授与する学問分野・専攻のリストの制定、学位条例の実施方法及びそれに関する規則や制度の制定・改定等を行う。事務局は教育部に置かれている。

<引用文献>

- 崔海丽・朱红・马莉萍, 2021, 「谁被“强基计划”录取—对某试点高等学校2020级新生的调查」『教育研究』第6期, pp.100-111.
- 范涌峰, 2021, 「新高考背景下普通高中教育质量监测:现实困境与制度框架」『中国教育学刊』第5号, pp.53-58.
- 賈立男, 2020, 「中国の大学入学者選抜改革における『強基計画』の導入及び実施状況」『大学入試研究ジャーナル』第32号, pp.228-235.
- 核心素養研究組, 2016, 「中国学生发展核心素养」『中国教育学刊』pp.1-3.
- 白井俊, 2020, 『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来:エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』, ミネルヴァ書房.
- 柳夕浪, 2014, 「从“素质”到“核心素养”—关于“培养什么样的人”的进一步追问」『理论探索』第3号, pp.5-11.
- 鲍威・李珊, 2016, 「高中学习经历对大学生学术融入的影响—聚焦高中与大学的教育衔接」『清华大学教育研究』第37卷第6期, pp.59-71.
- 刘海峰, 2002, 「高考改革的教育与社会视角」『高等教育研究』第5号, pp.3-8.
- 林崇德, 2016, 「中国学生发展核心素养:深入回答“立什么德、树什么人”」『人民教育』第19期, pp.14-16.
- 松尾知明, 2015, 『21世紀型スキルとは何か コンピテンシーに基づく教育改革の国際比較』明石書店.
- OECD, 2020, Curriculum (re)design A series of thematic reports from the OECD Education 2030 project OVERVIEW.
- 小川佳万・小野寺香編, 2022, 『中国の大学入試改革--「多様化」と「社会的公正」』高等教育研究叢書、165、pp.1-102.
- 辛涛, 姜宇, 刘霞, 2013, 「我国义务教育阶段学生核心素养模型的构建」『北京师范大学学报(社会科学版)』第1号, pp.5-11.

袁旦・孔晨辰・陈菲,2018,「新高考改革政策对大学生专业承诺的影响研究——基于浙江省生源本科新生的调查分析」『中国高教研究』 pp.31-35.

張小曉, 2023, 「高大接続から見た浙江省における大学入試改革—「素質教育」を包含する「三位一体」入試中心に」『九州大学教育社会学研究集録』第 25 号 pp.67-79.

中華人民共和國國務院, 2011, 「国家中长期教育改革和发展规划纲要(2010-2020 年)」
<http://www.scio.gov.cn/xwfbh/xwfbh/wqfbh/2014> (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國國務院, 2014, 「关于深化考试招生制度改革的实施意见」
http://www.gov.cn/zhengce/content/2014/09/04/content_9065.htm (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國國務院, 2019, 「关于印发《学士学位授权与授予管理办法》的通知」
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/yjss_xwgl/moe_818/201907/t20190726_392378.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部,2001,「基础教育课程改革纲要(试行)」
https://www.gov.cn/gongbao/content/2002/content_61386.htm (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部, 2003, 「教育部关于开展普通高中新课程实验工作的通知」
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3732/200312/t20031215_167347.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部,2003,「关于印发《普通高中课程方案(实验)》和语文等十五个学科课程标准(实验)的通知」
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/s8001/200303/t20030331_167349.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部, 2005, 「教育部关于进一步加强普通高中新课程实验工作的指导意见」
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3732/200503/t20050321_167353.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部, 2014, 「教育部关于加强和改进普通高中学生综合素质评价的意见」
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3732/201808/t20180807_344612.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部, 2014, 「教育部关于全面深化课程改革落实立德树人根本任务的意见」
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/jcj_kcjcggh/201404/t20140408_167226.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部,2017,「关于印发普通高中课程方案和语文等学科课程标准(2017 年版 2020 年修订)

的 通 知」
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/s8001/202006/t20200603_462199.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部,2017,『普通高中課程方案(2017 版)』, 人民教育出版社.

中華人民共和國教育部, 2018, 「2018 年全国教育事业发展统计公报」
http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/sjzl_fztjgb/201907/t20190724_392041.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部, 2018, 「关于加快建设高水平本科教育全面提高人才培养能力的意见」
https://www.gov.cn/gongbao/content/2019/content_5362027.htm (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部, 2019, 「教育部关于深化本科教育教学改革全面提高人才培养质量的意见」
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A08/s7056/201910/t20191011_402759.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部, 2020, 「关于在部分高校开展基础学科招生改革试点工作的意见」
https://www.gov.cn/zhengce/zhengceku/202001/15/content_5469328.htm (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部, 2024, 「全国高等学校名单」
http://www.moe.gov.cn/jyb_xxgk/s5743/s5744/A03/202406/t20240621_1136990.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

中華人民共和國教育部考試中心, 2019, 『中国高考評價体系說明』, 人民教育出版社.

浙江省教育厅, 2007, 「浙江省教育厅关于印发普通高中学生综合素质评价实施指导意见的通知」
http://jyt.zj.gov.cn/art/2007/6/8/art_1532973_27484851.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

浙江省教育厅, 2012, 「浙江省教育事业发展“十二五”规划」
http://jyt.zj.gov.cn/art/2012/2/16/art_1532994_27483872.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

浙江省教育厅, 2013, 「浙江省教育厅办公室关于印发普通高中学生成长记录与综合素质评价实施指导意见的通知」
http://jyt.zj.gov.cn/art/2013/1/17/art_1532973_27485058.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

浙江省教育厅, 2014, 「浙江省教育厅关于印发《浙江省普通高校招生选考科目考试实施办法》的通知」
https://www.zjzs.net/art/2018/5/16/art_45_5651.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

浙江省教育厅, 2018, 「浙江省教育厅关于印发《浙江省普通高校招生选考科目考试实施办法》的通知」
https://www.zj.gov.cn/art/2014/11/13/art_1229400468_59060256.html (最終閱覽日: 2024/07/18) .

浙江省教育厅, 「浙江省教育事业发展公报」
<http://jyt.zj.gov.cn/col/col1229266680/index.html> (最終

閱覽日：2024/07/03）。

浙江省政府,2008,「浙江省人民政府办公厅关于印发浙江省新课改高考方案的通知」
https://www.zj.gov.cn/art/2012/7/15/art_1229019365_62354.html2023.11.29.（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省发展和改革委员会,2012,「浙江省教育厅关于印发浙江省教育事业发展“十二五”发展规划」
http://jyt.zj.gov.cn/art/2012/2/16/art_1229266643_2378983.html（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2011a,「2011年浙江省普通高校招生考试报名办法」
<https://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/ss/201103/20110316/174385360.html>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2011b,「新课改高考方案」
<https://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/ss/201104/20110429/200568101.html>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2014,「关于印发浙江省深化高校考试招生制度综合改革试点方案的通知」
<https://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/zc/ss/201409/20140919/1294956399.html>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2016,「普通高校三位一体招生问题解答」
<https://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/zc/ss/201602/20160204/1521640064.html>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2017,「浙江省教育考试院关于做好2017年三位一体综合评价招生试点工作的通知」
<https://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/zc/ss/201703/20170323/1592746480.html>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2018「浙江省教育考试院关于做好2018年三位一体综合评价招生试点工作的通知」
最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2019「浙江省教育考试院关于做好2019年三位一体综合评价招生试点工作的通知」
https://www.zjzs.net/art/2019/2/19/art_45_5446.html（最終閱覽日：2024/06/24）。

浙江省教育考试院,2020「浙江省教育考试院关于做好2020年三位一体综合评价招生试点工作的通知」
https://www.zjzs.net/art/2020/5/9/art_45_6055.html（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2021「浙江省教育考试院关于做好2021年三位一体综合评价招生试点工作的通知」
https://www.zjzs.net/art/2021/4/19/art_45_4670.html（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2022,「浙江省教育考试院关于做好2022年三位一体综合评价招生试点工作的通知」
最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2023,「浙江省教育考试院关于做好2023年三位一体综合评价招生试点工作的通知」
最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2024,「浙江省教育考试院关于做好2024年三位一体综合评价招生试点工作的通知」
最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江省教育考试院,2024,「2021年至2023年浙江省普通高校招生投档及专业录取情况」
https://www.zjzs.net/art/2024/6/19/art_45_9726.html（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江工业大学,「2012-2024年浙江工业大学三位一体综合评价招生章程」
https://zs.zjut.edu.cn/html/w47_1.html（最終閱覽日：2024/07/18）。

杭州师范大学,「2012-2024年杭州师范大学三位一体综合评价招生章程」
http://undergrad.hznu.edu.cn/zsjz_4.html（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江大学,2012「2012-2024年浙江大学三位一体招生评价招生简章」
<https://zdzsc.zju.edu.cn/3301/list.htm>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江大学,2020「浙江大学2020年强基计划招生简章」
<https://zdzsc.zju.edu.cn/2020/0507/c3301a2093271/page.htm>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江大学,2021「浙江大学2021年强基计划招生简章」
<https://zdzsc.zju.edu.cn/2021/0406/c3301a2276146/page.htm>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江大学,2022「浙江大学2022年强基计划招生简章」
<https://zdzsc.zju.edu.cn/2022/0406/c3301a2514229/page.htm>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江大学,2023「浙江大学2023年强基计划招生简章」
<https://zdzsc.zju.edu.cn/2023/0410/c3301a2739261/page.htm>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江大学,2024「浙江大学2024年强基计划招生简章」
<https://zdzsc.zju.edu.cn/2024/0412/c3301a2900908/page.htm>（最終閱覽日：2024/07/18）。

温州大学,「2012-2024年温州大学三位一体招生评价招生章程」
<https://zs.wzu.edu.cn/bkwd1/swyt.htm>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江师范大学,「2012-2024年浙江师范大学三位一体招生评价招生章程」
<https://zs.zjnu.edu.cn/6886/list.htm>（最終閱覽日：2024/07/18）。

浙江理工大学,「2012-2024年浙江工业大学三位一体招生

评价招生章程」

<https://zs.zstu.edu.cn/zszc.htm>（最終閲覧日：2024/07/18）。